

かほだより

30-9号
H30(2018).12.13

長野県伊那家畜保健衛生所
〒396-0026 伊那市西町 5764
Tel: 0265-72-2782, Fax: 0265-72-2765
E-mail: inakachiku@pref.nagano.lg.jp
URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/inakachiku/>
伊那諏訪家畜畜産物衛生指導協会
Tel&Fax: 0265-76-8086

酪農生産性
向上対策事業

第2回バルク乳スクリーニング検査の集計 結果をお知らせします

～お送りした農場個々の結果と併せ、乳質向上の参考にしてください～

検査時期：平成30年10月9日～30日

検査対象戸数：78戸(上伊那60戸、諏訪18戸)

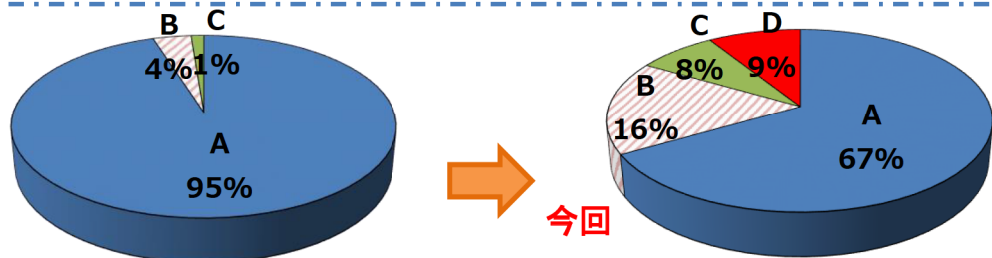
検査項目：生菌数、黄色ブドウ球菌、無乳糖性レンサ球菌、環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌、大腸菌群、耐熱性菌、牛ウイルス性下痢ウイルス(BVDV)、マイコプラズマ分離培養

菌種別の検査結果

B～Dだった項目は、目標Aに近づくようコメント(今回の状況)を参考にチェックしてみましょう！

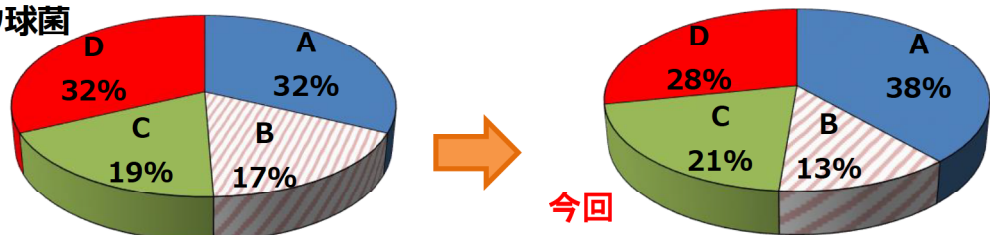
(評価) A:目標、B:やや多い、C:多い、D:非常に多い

★ 生菌数



Aランクは67%、B・C・Dランクは(3,000 CFU/mL以上)は33%でした。
昨年同時期に比べ、Aランク農場が減少しました。

★ 黄色ブドウ球菌 (SA)



Aランク(SA陰性)は38%、B・C・Dランクは(SA陽性)は62%でした。
昨年同時期に比べ、陰性農場が増加しました。

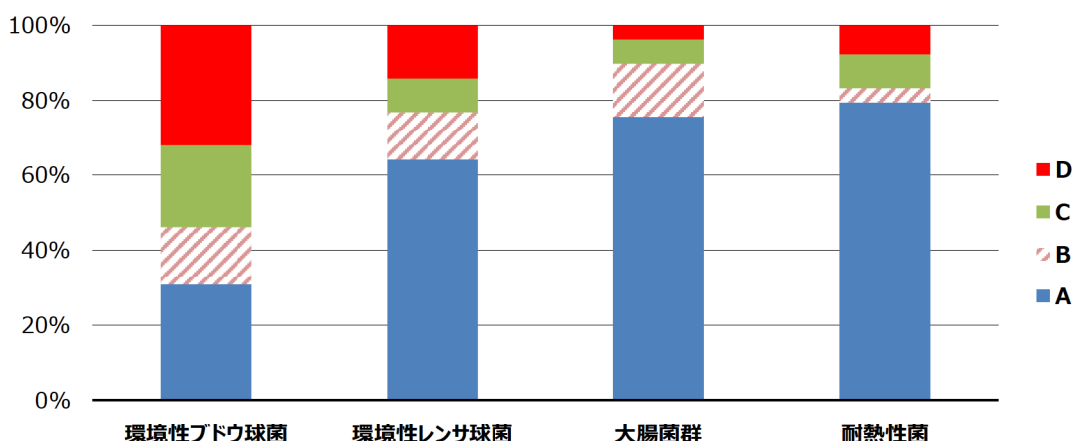
～ SAは菌数の多少にかかわらず対策をとる必要があります ～

6割以上の農場でSAが検出されました。ご存知の通りSAは伝染力が強く、治癒が困難で、体細胞数を増加させる主因となります。

対策

- ① 全頭の細菌検査による感染牛(感染分房)の特定
 - ② 当面の対応：搾乳順序を最後にする、並び替えをする、搾乳衛生の再確認など
 - ③ 乾乳期治療、SA感染牛の淘汰など
- ※ SA感染牛であっても、排菌していない時はSAが検出されない場合があります。
体細胞数が高い牛は感染の疑いがありますので、注意してください。

★ 環境性の細菌



環境性の細菌は、搾乳の技術や衛生の状況を反映します。
多数の農場で検出され、特に環境性ブドウ球菌は約7割がB・C・Dランクでした。

～ 環境性の細菌を減少させるために ～

- 洗浄水の温度を確認しましょう！！
- 搾乳手順、乳頭の清拭方法を見直しましょう！！
- 搾乳機器の洗浄状態を確認しましょう！！

菌種別のポイントは・・・

<大腸菌、耐熱性菌が多い場合>

搾乳機器の洗浄殺菌に問題ありませんか？ 搾乳システムの洗浄状態やライナーゴムの劣化をチェックしましょう。大腸菌数が多く、耐熱性菌が少ない場合は、搾乳衛生の不良が考えられます。搾乳手順を再度検討しましょう。

<環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌が多い場合>

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌が検出されても、牛がこれらの菌に感染しているとは限りません。これらの菌は環境にも由来するので、菌が多数検出された場合は、環境や搾乳手技に問題があるかもしれません。環境中の菌が多ければ乳房炎にも罹りやすくなります。牛床の汚れや乾燥状態を確認し、乳房や乳頭の汚れを少なくしましょう。また搾乳手順や搾乳方法を見直し、とくに乳頭の清拭方法をチェックしましょう。

★ 無乳性レンサ球菌、牛ウイルス性下痢ウイルス(BVDV)、マイコプラズマ分離培養

管内全ての農場で陰性でした。

S A 感染牛の確認等については、家畜保健衛生所までご連絡ください。
今なら衛生指導協会事業で対応できます！

問い合わせ・連絡先：伊那家畜保健衛生所保健衛生課 Tel:0265-72-2782, Fax:0265-72-2765

《海外では口蹄疫続発中！引き続き飼養衛生管理基準を守り、防疫対策に万全を期しましょう》